

浦和学院高校創立 30 周年記念事業への協賛報告

平成 19 年度は浦和学院高校が学校創立 30 周年を迎えました。特に盛大な祝賀会を催すようなことはありませんでしたが、老朽化した食堂の改修(20 年 5 月より新規営業開始)、シラサギ記念自然史博物館から図書館への転化(20 年 6 月 2 日オープン)など在校生にとって喜ばしい改善が急ピッチで進められていました。また、平成 20 年 7 月下旬より 2 期生から使用されてきた体育館が全面改修となります。新体育館は平成 21 年 4 月にオープンが決定しています。

同窓会では、母校の「学校援助基金」の支出を次のように検討を重ね、役員会の承認を経て決定に至りました。

浦和学院高校創立 30 周年記念に伴う同窓会協賛について (案)

1. 主旨

同窓会学校援助基金の事業計画に示す定義は以下の通りであり、同窓会費と異なる基金最大の活動目的は「学校記念事業への援助」である。今回、母校の 30 周年を迎えるにあたり記念事業としては初めての拠出となる。

学校援助基金事務局内規 (一部抜粋)

1. 援助基金の対象について

援助対象については、同窓会学校援助基金規定に基づき次のように定める。

①学校記念事業への援助。

学校記念事業とは、校舎落成、施設設備等の購入をさすものであり、浦和学院高等学校からの要請又は同窓会常任幹事会における決議により原則的には有形物を対象として助成する。

2. 寄贈品選定の基本方針

①一部の特定者に限られた物品ではなく、生徒・教職員の大多数が公平に利用できる有形物とする。

②金銭のみの授受は一切行わない、「同窓会寄贈」として将来に利用価値の高いこと。

寄贈品として、数年で消耗する物品は好ましくなく四半世紀もしくは、半世紀にわたり目に触れられること。

③基金財政を勘案し、40 周年・50 周年も視野に入れた支出とする。

3. 考えられる寄贈品

①同窓会会館 (記念館) …3,000 万円程度の財源では大したものではない。時期尚早か。

②公衆トイレ (外) …2,000 万円程度の投資をしていく必要がある。利用価値は非常に高い。

③生徒食堂のテーブル・椅子 …寄贈品としては好ましいが、食堂本体が老朽化しており備品価値は下がる。

④トレーニング室 …運動系部活動の一部利用者のみとなり好ましくない。但し次回の記念事業の際に、文化事業に援助するのであれば納得性は得られるかも。

⑤図書館刊行物 …一般的には好ましい。半永久的に利用できる。

⑥図書館ライブラリースペース…DVD・ビデオなどを閲覧、利用できる部屋の設置。場所や管理に問題がある。

⑦部室棟の新築 …3,000 万円程度の財源では大したものではない。

⑧教員用机・椅子 …職員室の執務机・椅子一式を一新する。卒業生より永年の感謝込めた形で贈呈する。

4. 結論

同窓会は、学校が改修を予定している図書館に対して協賛を行う。

但し、その条件を学校側に提示していく。

以上

平成 19 年 9 月 10 日

浦和学院高等学校
校長 内藤 英夫 様

浦和学院高等学校同窓会
会 長 片岡 誠一

学校創立 30 周年記念事業への学校援助基金のご回答

拝啓 初秋の候、貴職におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は、同窓会活動へのご理解とご協力に心から感謝申し上げます。

さて、先般ご依頼のありました、標記の件につきまして平成 19 年 9 月 1 日同窓会常任幹事会を開催し、役員の見解を求めましたところ下記のような方向性が定まりました。新図書館の改修工事等につきましては、学校側が着々と準備を進めていると推察されますが、当方の事情もご賢察いただき、今後打ち合わせを重ねていただきますようお願いする所存であります。

同窓会役員からは母校への思い、本件に関する意見が多数寄せられました。合わせてご一読いただければ幸いに存じます。

敬具

記

1. 日 時 平成 19 年 9 月 1 日 土曜日 18:10～21:00 さいたま市文化センター第 3 集会室
2. 議 案 学校創立 30 周年記念事業への学校援助基金の支出について
3. 出席者 片岡会長以下常任幹事・事務局 14 名
4. まとめ

一、決議事案

- ①学校創立 30 周年記念事業図書館開設への資金援助 … 全会一致で決定
- ②その総額を 3,000 万円とする … 条件付決定
- ③但し、②を実行する場合以下の条件を提起する。

一、費用配分(割合)

3,000 万円の配分(割合)を学校側と協議させていただきたい。

- ①施設全体の建設費補助 例:1,800 万円
- ②図書費(現品にて) 例: 600 万円(図書 5,000 冊の現品)
- ③同窓会コーナー(スペース)の設置 例: 600 万円

一、支出条件

全生徒が公平に活用できる施設への投資を前提とさせていただきたい。

- ①集まりやすい場所としての環境確保。生徒導線を確保して欲しい。
(「生徒が普通に行きやすい場所にして欲しい。」という意見から)
- ②学習環境を整えることに力を注いで欲しい。
(「一般的に勉強できるスペースが少ない」という意見から)
- ③同窓会援助の PR を積極的に行って欲しい。(掲示板や図書カードの一部に)
(「支出の趣旨を満遍なく周知する必要がある」という意見から)
- ④同窓会コーナーの内容は、同窓会に一任して欲しい。
(「記念写真や沿革を掲載していきたい」という意見から)
- ⑤卒業生の図書館利用を可能にして欲しい。
(「協賛の意味と次回以降の理解のために」という意見から)

以上

平成 19 年 9 月 1 日 常任幹事会議事録抜粋(意見順不同)

議題「学校創立 30 周年記念事業への学校援助基金の支出について」

同窓会長より、学校側の意向を役員に伝えた上で以下のような意見が出されました。

- ・図書館に支出することはよいと思う。しかし、3,000 万円という金額は想像もつかない。全額現金ではなく物の寄贈を考えたい。(20 期女)
- ・図書であれば、裏表紙に「同窓会寄贈」と刻印して欲しい。一度に寄贈するのではなく段階的に小分けにして協賛して行くほうが良い。(9 期男)
- ・ハード(施設)よりソフト(内容)である。中身のない施設は興味を持たないので、ハードよりソフト面に援助していきたい。(8 期男)
- ・既に建物があり内装部分の改装のみで工事費に「寄贈」はおかしい。建築に 3,000 万円出すなら目にみえる部分に使ってもらいたい。施設の改修費は学校が出すのが当たり前。生徒への活用を目的とするなら食堂へ投資した方が、全体的なバランス感がある。また、10 年 or 20 年先にも同様の「金だけ出して!」みたいに言われぬか。(1 期男)
- ・現在の図書室は職員室の上にあるのに、利用したことがない。情報系の大学に通っているが図書館に行ったことがない。今は、PC で調べ物ができるので図書館は使われぬと思う。(27 期女)
- ・ニーズにあった本でなければ意味がない。消耗品的な物では会員の理解も得られない。小学生でも、パソコンで調べ物をしている時代なので、学校側とすりあわせをしていく必要がある。(7 期女)
- ・お金を出す以上、形に残るもので博物館を図書館にして利用されなければ意味がない。ハード面が改装されても、中身に充実感がないようなので無意味な投資にならないか。(8 期男)
- ・同窓会を PR できるフロア、コーナーを設置して欲しい。創設者の設立の意志を残してもらいたい。(5 期男)
- ・支出すると決めたら、同窓会の要望を出したほうがいい。言わないとおかしい。(12 期男)
- ・生徒の流れは、博物館の方へ流れているのか。私たちの時代は、体育以外は利用価値のない方向だった。学校は導線はその方向にもっていけるのか。(7 期女)
- ・お金を出すので、「このように作って欲しい」と要望を出せばいい。(12 期男)
- ・自分は、昨年まで図書委員長をしていた。本を読むだけでは生徒は集まらない。勉強ができるようなスペースが欲しい。自分は第 3 校舎を利用していたが、放課後は吹奏楽部に追い出されて勉強ができなかった。費用は、図書にかけるが、ニーズにあったものでなければ意味がないと思う。(27 期男)
- ・やはり、本を主体に寄贈したほうが理解を得られると思う。(4 期男)
- ・学校の説明を聞くと、建築費に 3,500 万円。システム費に 2,200 万円。が予定されている。その方向で学校側に折衝を重ねればよい。(1 期男)
- ・総額 7,000 万円の予算の中で、「事務局からは、生徒少子化の影響で卒業生も減少する」という説明がある。そのような状況で半額にちかいものを出していいのか。(12 期男)
- ・学校は、野球をはじめスポーツ面に力を注いできた。文化面の施設も充実させたいと考えていると思う。「野球だけ」とか「何々だけ」に偏らない公平な支出なら理解は得られると思う。(1 期男)
- ・費用を出す条件の中に、「同窓会図書館」という命名くらい要望しても良いのではないか。(8 期男)
- ・学校側からの要望は、総額 6,000 万円のうち 3,000 万円の協賛のお願いであり、そのウエイトは大きいですが、全額を出さないのに、あまり細かいことに立ち入るのは僭越である。さまざまな意見に正当性もあるが、要望という形で学校側と折衝していくので理解願いたい。(会長)

以上

平成 20 年 3 月 5 日

浦和学院高等学校
校長 小沢 友紀雄 様

浦和学院高等学校同窓会
会 長 片岡 誠一

学校創立 30 周年記念事業への学校援助基金の最終回答（決定事項）

拝啓 早春の候、貴職におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は、同窓会活動へのご理解とご協力に心から感謝申し上げます。

さて、平成 20 年 3 月 1 日に学校側よりご要望のありました同窓会援助基金（学校創立 30 周年記念事業、新図書館への協賛）につきましては、先般の懇親会に引き続き行われた役員会におきまして下記のように決定を致しました。学校側からの要望と金額面の内訳に多少の開きがございますが、同窓会役員の母校への思い、本件に関する経緯を考慮していただきましてお取組みいただければ幸いに存じます。

尚、懇親会席上におきまして、ご調整をいただきました校長先生に対し、熱意余って行き過ぎた表現がございましたことを深くお詫び申し上げます。

今後とも同窓会活動に対しましてご理解とご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 日 時 平成 20 年 3 月 1 日 土曜日 13:00~14:00 浦和学院高等学校第 3 応接室
2. 議 案 第 2 回 学校創立 30 周年記念事業への学校援助基金の支出について
3. 出席者 片岡会長以下常任幹事・事務局 14 名
4. まとめ

平成 19 年 9 月 1 日仮決議に対し、学校側と調整の結果修正決議とする。（全会一致）

一、決議事案

- ①学校創立 30 周年記念事業図書館開設への資金援助 … 全会一致で再承認
- ②その総額を 3,000 万円とする。
- ③現金の上限は 2,000 万円と修正する。
- ④第一の目的は「図書刊行物」の寄贈とし、当初の目的を逸脱しない。
- ⑤本日図書館を見学したがあまりにも図書が少ない。平成 20 年度に 500 万円をあてる。

一、費用配分(割合)

3,000 万円の配分(割合)を学校側と協議させていただきたい。

	[9 月提示]	[学校要望]	[修正決議]
①施設全体の建設費補助(現品寄付)	1,800 万円	⇒ 2,500 万円	⇒ 2,000 万円
②図書費(現品寄付)	600 万円	⇒ 300 万円	⇒ 300 万円+500 万円
③同窓会コーナーの設置(現品寄付)	600 万円	⇒ 200 万円	⇒ <u>200 万円</u>
			3,000 万円

一、支出条件

- ①援助基金 2,000 万円については、学校宛に平成 20 年 3 月 31 日までに送金する。
- ②図書購入費については平成 20 年度に 500 万円を持ち越し、図書館刊行物充実に支援する。
- ③全校生徒の前で寄贈する（同窓会長から生徒代表へ）形式をご用意したい。

以上